



第13回 三重県伊賀市× 伊賀鉄道 伊賀線（伊賀上野—伊賀神戸）

- 開催期間： 2024年8月16日（金）～18日（日）
- 会場： 三重県伊賀市
- テーマ： 選ばれる観光地"伊賀"～近鉄・JRと連携した誘客～
- 参加校： 英心高等学校 桔梗が丘校、芝学園芝中学校・高等学校、福島工業高等専門学校、清風南海中学校・高等学校、英心高等学校、京華中学・高等学校、成城中学校・高等学校、浪速高等学校・浪速中学校、奈良育英高等学校、清風中学校・高等学校、開智日本橋学園中学・高等学校、東北学院中学校・高等学校
全12校（内オンライン3校）／ 参加人数92名
- 後援： 国土交通省、文部科学省、三重県、三重教育委員会、伊賀市、伊賀市教育委員会、一般社団法人日本民営鉄道協会、一般社団法人東京私立中学高等学校協会、NHK津送局、三重テレビ放送株式会社、毎日新聞中部本社、日刊工業新聞社

2024年8月16日(金) 上野市車庫見学・伊賀上野城見学

■上野市車庫見学【行程】

- ◎洗車体験
- ◎車両内見学
- ◎車庫内見学



レールスクーター乗車体験



車掌体験



ポイント切替体験



■伊賀上野城見学

案内：いがうえの語り部の会



2024年8月17日(土) グループセッション～調査研究

■グループセッション

伊賀鉄道 車両部門・運輸部門・企画部門／西日本旅客鉄道(株)／伊賀市



■伊賀市 企画振興部 交通戦略課

鉄道ネットワーク係長森地孝充氏

講話：伊賀市の地域公共交通と伊賀鉄道



■じゃんけん大会／スペシャルプレゼント



※伊賀鉄道 鉄道部品
・40年物の電車線
・吊り革

※JR西日本 近畿統括本部
阪奈支社 地域共生室
・神戸～大阪 鉄道開業150周年記念 特製モバイルバッテリー

2024年8月18日(日) プレゼン発表～講演

伊賀線活性化協議会
中井茂平 会長 ご挨拶



伊賀鉄道株式会社
福嶋博 代表取締役社長 ご挨拶



■ 審査員

- ・審査委員長 伊賀鉄道株式会社 代表取締役社長 福嶋博氏
- ・伊賀鉄道株式会社 代表取締役常務 鉄道営業部長 増田政俊氏
- ・伊賀市長 岡本栄氏
- ・伊賀線活性化協議会 会長 中井茂平氏
- ・西日本旅客鉄道株式会社 近畿統括本部 阪奈支社 地域共生室長 福山和紀氏
- ・伊賀市教育委員会 事務局長 川部千佳氏
- ・北海道大学 名誉教授 石井吉春氏
- ・東洋経済新報社 編集局 記者 大坂直樹氏
- ・映像プロデューサー 千葉行利氏（動画部門のみ）

岡本栄 伊賀市長 ご挨拶



■ 近畿日本鉄道 株式会社 企画統括部
営業企画部 村上慶晃氏
講演：私の携わった鉄道の仕事



■ JR西日本 近畿統括本部 阪奈支社 地域共生室 室長 福山和紀氏
講演：駅からはじまる地域づくり

■ プレゼン風景



企画部門 表彰 ①

■伊賀鉄道株式会社 社長賞／浪速高等学校・浪速中学校 ※ヘッドマーク制作権



選ばれる観光地“伊賀”
～近鉄・JRと連携した誘客～
-地域創生と鉄道の役割-



浪速高等学校・浪速中学校 鉄道研究部



企画部門 表彰 ②

■伊賀線活性化協議会 会長賞／芝東北学院中学校・高等学校 ※副賞：伊賀の特産品 IGAMONO 伊賀牛

伊賀鉄道線活性化案

東北学院中学校・高等学校
鉄道研究部



■伊賀市長賞／成城中学校・高等学校 ※副賞：伊賀の特産品 IGAMONO 伊賀牛

成城中学・高等学校 鉄道研究部
伊賀鉄道活性化案
Iga Railway Revitalization Plans



■西日本旅客鉄道株式会社 阪奈支社 地域共生室長賞／清風中学校・高等学校 ※副賞：大阪～神戸鉄道開業150周年記念ノベルティ



写真部門 表彰 ①

- 伊賀鉄道株式会社 社長賞「阿武隈急行線沿線に広がる田園風景と山々」
浪速高等学校・浪速中学校 高校1年 浜田 千加 ※副賞：伊賀鉄道 車内吊り・駅貼りにて掲出



- 伊賀線活性化協議会 会長賞
「忍者は姿を現す」
奈良育英中学校・高等学校 高校1年 福田蒼士
※副賞：伊賀の特産品 IGAMONO 伊賀牛



- 伊賀市長賞「忍者はいつでも君を見ている」
成城中学校・成城高等学校 中学3年 松下結仁
※副賞：伊賀の特産品 IGAMONO 伊賀牛



- 西日本旅客鉄道株式会社 阪奈支社 地域共生室長賞
「夏と秋のコラボ」 成城中学校・成城高等学校
中学2年 勝見颯斗
※副賞：大阪～神戸鉄道開業150周年記念ノベルティ



写真部門／動画部門 表彰 ②

■佳作



「夏、晴れ、いがてつ。」
清風南海中学校・高等学校
高校1年 市谷直澄



「自然と電車を一緒に！」
成城中学校・成城高等学校
中学3年 山田 空



「伊賀上野城を眺めて」
成城中学校・成城高等学校
中学2年 山口瑛祐



「歴史の中を走り抜ける」
東北学院中学校・高等学校
高校2年 石川篤志



「待機」
成城中学校・成城高等学校
中学1年 金子聖史



「田んぼを走る列車」
成城中学校・成城高等学校
中学1年 漆原陵太

【動画部門】

- 伊賀鉄道株式会社 社長賞「終車__忍びの夜」
東北学院中学校・高等学校
- ※副賞：Amazonギフトカード



2024年10月20日 企画部門 ヘッドマーク装着式

■伊賀鉄道 伊賀線 上野市駅 ホームにて



大溝代表理事
挨拶



伊賀鉄道株式会社
福嶋博 代表取締役社長
ご挨拶



速高等学校・浪速中学校
鉄道研究部 奥邨エビスさん
受賞のお言葉

■ヘッドマーク授与

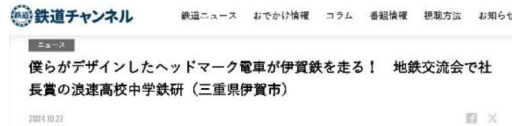
伊賀鉄道株式会社 社長賞 受賞校
浪速高等学校・浪速中学校 鉄道研究部 代表 奥邨エビスさんから
伊賀鉄道株式会社 福嶋社長にヘッドマークが手渡されました。



■ヘッドマーク装着



鉄道チャンネル 2024.10.27



浪速高校の生徒代表からヘッドマークを贈られる伊賀鉄道社長（右から2人目）

三重県西部を走る伊賀鉄道（伊賀鉄）に、快定する電車が連続・伊賀上野城、手裏剣、笑る顔などをモチーフにしたヘッドマークを付けた電車が運転を始めた。

ヘッドマークをデザインしたのは、大阪市住吉区の浪速高校中学鉄道研究部の生徒たち。同校は、2024年8月に伊賀鉄で開かれた、「全国高校生地方鉄道交流会（地鉄交流会）」の企画部門で、最優秀員の伊賀鉄社長賞を受賞。副賞としてヘッドマークのデザイン権が贈られた。

ヘッドマークの贈呈・披露式は2024年10月20日に伊賀上野駅で開催。式では、（一般社団法人）全国高校生地方鉄道交流会の大満貫代表理事と、伊賀鉄の福高博社長があいさつ。福高社長は、忍の里を走る鉄道らしく伊賀忍者の装束で登場した。

次いで、主役代表として奥柳エビス（おくむら・えびす）さんがあいさつ。「伊賀鉄が走る伊賀の地は、瑞穂の国と呼ばれる美しい田園風景が広がる。私たちは、伊賀の地を走る鉄道をイメージしながらヘッドマークを制作した」と述べた。

ヘッドマークを装備するのは200系電車1編成（2両）。伊賀鉄は忍者のラッピング車が多いが、ヘッドマーク電車は譲渡前の東色1000系の雰囲気を残す。

ヘッドマーク電車の運行は2024年末まで。同じ中吊り広告枠は、地鉄交流会の写真部門で入賞した中高生の作品が掲出されている。



浪速高校の生徒がデザインしたヘッドマーク

写真：上野真生
写真提供：全国高校生地方鉄道交流会

朝日新聞 2024.10.27



高校生がデザインしたヘッドマーク 伊賀鉄道で走行

小西孝司 2024年10月27日 10時00分

高校生がデザインした列車のヘッドマークの装着式が20日、三重県伊賀市上野丸之内の伊賀鉄道上野市駅であった。同市で8月にあった第13回全国高校生地方鉄道交流会で誘客アイデアの最優秀賞に選ばれた浪速高校・浪速中学（大阪市）の鉄道研究部がマークを考えた。

県内や東京、大阪、福島、宮城、奈良から約100人が参加した交流会で、同校・同中は「NARUTO」のラッピング列車や沿線にある木津川川の桜並木整備などのアイデアを披露。その副賞としてヘッドマークのデザイン権が贈られた。

デザインは、稲穂の背景に伊賀上野城や列車、手裏剣をあしらったもの。代表の高校2年、奥柳（おくむら）エビスさん（16）は「恥ずかしいけど、うれしい」と喜んだ。マークは直径40センチ。正面ガラスに貼られ、年内いっぱいはいは走る予定という。（小西孝司）



浪速高校・浪速中学校鉄道研究部の部長らとヘッドマーク＝三重県伊賀市上野丸之内



朝日新聞デジタル＞ 高校生がデザインしたヘッドマーク 伊賀鉄道で走行＞ 写真・画像

ヘッドマークを持つ浪速高校・浪速中学鉄道研究部の部長らと忍装束の浪速通、伊賀鉄道社長＝三重県伊賀市上野丸之内

伊和新聞 2024.10.28

伊和新聞 伊賀と大和をむすぶ生活情報誌「いわネット」

Topics
トピックス

伊賀鉄道に新しいヘッドマーク

© 2024.10.28

浪速高校・中学鉄道研究部がデザイン

全国高校生地方鉄道交流会（代表理事・大満貫之氏）は今年8月、「富ばれる観光地」伊賀～近鉄・JRと連携した誘客」をテーマに、第13回全国高校生地方鉄道交流会を行いオンラインを含め12校が参加した。その中で、私立浪速高等学校・浪速中学校鉄道研究部の研究成果が、企画部門の最優秀賞である伊賀鉄道株式会社社長賞を受賞。同時に副賞として伊賀鉄道車両のヘッドマークデザイン権が授与された。

それに応じて同高校と中学の鉄道研究部は全員で研究し、受賞に至った企画で評判の良かった写真なども勘案し、イメージを練りデザインを完成させた。そして10月20日、完成したヘッドマークを列車に取り付ける披露式となった。

鉄道研究部の生徒を代表し、2年生の奥柳エビスさん（16）は「伊賀鉄道が走る伊賀の地は、まさに瑞穂の国というに相応しい素晴らしい田園風景が広がっています。今回のデザインは、稲穂が実る田園風景に伊賀のシンボルとも言える伊賀上野城と手裏剣、そして伊賀鉄道をアレンジして制作しました」とデザインに込めた思いを話した。全国高校生地方鉄道交流会代表理事の大満貫之さんは「鉄道好きが、ヘッドマークをデザインするのは嬉しいこと。しかもそれがダイヤの中で走ってくれるなんて、鉄道好きにはたまらない。これも交流会の時、企画をやってはやり直しを、みんなで何度も繰り返して最優秀賞になったからこそ。これは自慢していい」と祝いの言葉を述べ、伊賀鉄道の福高博社長は「皆さんの若さと元気をもらって、これからも伊賀鉄道は、元気に走っていききたい」と生徒たちに激励を述べた。

出席した鉄道研究部員の4人（高校3年生1人、2年生2人、中学3年生1人）は、協力しヘッドマークを赤帯ラインのオリジナルカラー車の先頭に取り付けた。すっきりとして端正で、この車両によく似合っていた。ヘッドマークのデザイン優秀賞と言われても、遜色のない優れたデザインだ。鉄道マニア4人の興味がまじった表情が素敵だった。

伊和新聞 伊賀と大和をむすぶ生活情報誌「いわネット」

Topics
トピックス

伊賀鉄道に新しいヘッドマーク

© 2024.10.28

